PART3　練習問題解説・係り結びの法則

問四　「さらに来じ」の傍線部の読みをひらがなで書け。

問五　「忘れ［　　］けり」の空欄にあてはまる「ず」の助動詞を適当な活用形にして書け。

問六　次のA・Bの波線部の活用の行・活用の種類・活用形をそれぞれ書け。

A「心のどかに聞こえむ」

B「夫人の見けむ目のやうにはあらずとも…」

A＝

B＝

問七　「人はいかにおもふらむ、…」の傍線部の活用の行・活用の種類・活用形をそれぞれ書け。

問八 次の空欄には、形容詞「すくなし」に助動詞「べし」が接続した文節が入る。文法的に正しい形を作り、すべてひらがなで、記せ。

釈空海などいへる人こそ、恥ぢ顔［　　］。

＊係り結びの法則

〈係助詞〉

ぞ
なむ
や
か
｝〜　　　。

こそ　〜　　　。

問九 「生ひなりたるらん」の品詞分解として、最も適当なものを次の中から選べ。

① 動詞＋助動詞＋助動詞
② 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
③ 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
④ 動詞＋動詞＋助動詞
⑤ 動詞＋動詞＋動詞＋助動詞

第4講 PART3 確認問題

① 波線部a・bの「来」の読みとして最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

ここに参り来(a)べかりければこそと、…

参り来(b)むことのわりなかるべきこと、…

ア　aこ・bき　　イ　aき・bこ　　ウ　aく・bこ　　エ　aく・bき　　オ　aこ・bく

② 空欄には、動詞「思す」が入る。入る形として最も適当なものを、次の中から選べ。

うちとけぬさまにものをつつましと［　　］たる気色、…

ア　思さ　　イ　思し　　ウ　思す　　エ　思せ

③ 「窓をへだててかくぞいひ［　　］。」の空欄に当てはまる助動詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　き　　イ　しか　　ウ　たり　　エ　ける　　オ　けれ

④「深く心得べきなり。」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ア行下二段活用動詞の連体形　　イ　ア行下二段活用動詞の終止形
ウ　ハ行下二段活用動詞の連体形　　エ　ハ行下二段活用動詞の終止形
オ　ワ行下二段活用動詞の連体形　　カ　ワ行下二段活用動詞の終止形

⑤「地獄に落ちさせ給はん事こそ、あさましく」の後に続く言葉として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　侍れ　　イ　侍り　　ウ　侍る　　エ　侍ら

第４講　PART３　解答

問四　こ

問五　ざり

問六　A＝ヤ行・下二段活用・未然形　B＝マ行・上一段活用・連用形

問七　ハ行・四段活用・終止形

問八　すくなかるべけれ

問九　①

第４講　PART3　確認問題　解答

〈解説〉

① カ変動詞「来」を読むためには、活用形がわかればよい。活用形は「下」を確認する。ａは、下が「べかり」＝助動詞「べし」。「べし」の接続は終止形。よって、「く」と読む。ｂは、下が助動詞「む」。接続は未然形。よって、「こ」と読む。ウが正解。

② 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。「たる」は助動詞「たり」で接続は連用形。「思す」はサ行四段活用動詞であるので、連用形は「思し」となる。よって、イが正解。

③ 空欄補充の問題は係助詞が絡んでいるものが多い。本設問では空欄が「。」の上なので、活用形を素直に考えれば「終止形」か「命令形」になるが、入試問題で活用形を考えるときに文末であれば、「係り結びの法則」が絡んでいることがほとんどである。よって、上をざっと見て「ぞ・なむ・や・か・こそ」のどれかがないかを確認してみると、本設問でもやはり「ぞ」がある。文末は連体形となる。選択肢の中で連体形になっているものはエのみ。よって、エが正解。

④ 「心得（こころう）」は覚えておくべき活用の動詞でア行下二段活用。活用形は、下が「べき」＝助動詞「べし」。「べし」の接続は終止形。よって、イが正解。

⑤ 文中に「ぞ・なむ・や・か・こそ」の有無を確認すると「こそ」があるので、「係り結びの法則」により結びの語は已然形となる。「侍り（はべ）」はラ行変格活用動詞であり、已然形は「侍れ（はべ）」。よって、アが正解。

〔解答〕

①　ウ

②　イ

③　エ

④　イ

⑤　ア